



かわはく No.6

CONTENTS

特別展点描 発見！「三途の川」	2
来館者アンケート調査から	4
かわはくの展示から「水車小屋広場」	6
かわはく日誌	7
教育普及のお知らせ	8



発見！「三途の川」

(1) はじめに

さいたま川の博物館では、今年度第2回の特別展「日本人の他界観を探る－三途の川－」を開催します。

「三途の川」は、皆さんも知ってると思いますが、人が死んでからあの世に行くときに、必ず渡らなければならないとされた想像上の川です。しかし、特別展の開催を準備していた私は、ふと、「三途の川」という川は、実際にこの日本にあるのだろうかという素朴な疑問がわきました。早速、博物館にある『河川大辞典』をペラペラめくってみると、あったあった、全国に3ヶ所ありました。ここでは、全国に3ヶ所ある「三途の川」と特別展の展示内容などを簡単に紹介してみようと思います。

(2) <群馬県にある三途川>

群馬県甘楽町を流れる利根川水系の一級河川です。長さは、2.5kmで、白倉川に合流します。

三途川と国道254号が交差する場所に、甘楽町指定文化財の姥子堂（うばこどう）があります。姥子堂には、江戸時代に作られた、木像の奪衣婆（だついばあ）が祀（まつ）られています。奪衣婆は、三途の川のほとりにいて死者の衣服を剥ぎ取ると言われていた老婆です。

姥子堂から少し下った場所に宝勝寺（ほうしょうじ）という真言宗の寺院があります。この寺院所蔵で文政3年(1820)に書かれた『宝勝寺起立書之事（ほうしょうじきりつがきのこと）』（町指定文化財）のなかに、姥子堂の西側を流れる川のことを「三途川」としてあり、幕末には、「三途川」という名前が付けられていたことが分かります。



群馬県甘楽町を流れる三途川

(3) <千葉県にある三途川>

千葉県長南町を流れる一宮水系の二級河川です。長さは、4.5kmで一宮川に合流します。

三途川流域に、三途台（さんずのだい）という地名があります。ここに、「三途河頭 極楽東門、蓮華台上阿弥陀坊、大平埜山本実成院長福寿寺」という長い勅号をもつ天台宗の寺院、長福寿寺（ちょうふくじゅじ）があります。この勅号は、寺伝によると南北朝時代につけられ、三途川を渡ると極楽の入り口である東門がある寺院という意味です。事実、寺の付近の人達は、普段の日に東門からは決して寺には入りませんでした。東門をくぐるのは葬儀の時だけだったようです。

ここでは、「三途の川」を渡った先には、地獄だけではなく極楽もあると意識されていたことが分かります。いずれにしても、「三途の川」は、この世とあの世を分ける境界としての川であったことは、間違いないようです。



千葉県長南町を流れる三途川

(4) <宮城県にある三途川>

宮城県蔵王町を流れる阿武隈川水系の河川です。長さは、1.8kmで濁川に合流します。

三途川は、蔵王山の8合目あたりにあり、川というよりも沢のようです。この地域では、江戸時代の中頃から蔵王山にある蔵王権現（ざおうごんげん）が祀られた刈田嶺神社（かっただみねじんじゃ）に「お山詣り」をする事が流行していました。お詣りをする人達は、「お山詣り」の道中を輪廻転生（りんねてんしょう）になぞらえて、「三途川」を境にして新しい草履に履き替えたりしました。また、川を越えたら大小便をしてはいけないという戒（いまし）めもありました。三途川を境界としての川と意識していたと思われる。



宮城県蔵王町を流れる三途川

また、江戸時代中頃に書かれた『奥羽観蹟聞老志（おおうかんせきもんろうし）』のなかでは、この三途川のことを冥府（めいふ）（あの世）の地名と記しています。

(5) 明るい「三途の川」

「三途の川」は、あの世へ渡る川ということから暗いイメージがありますが、調査をしている過程でおもしろい話を聞きました。

それは、群馬県の三途川に車が飛び込む事故が起こってもけが人がでないとか、十王図(主に江戸時代にあの世の裁判官と地獄の風景を描いたもの)を新しく表装し直すと長生きをするとか、という話です。

また、戦国時代の僧侶の准后道興（じゅんごうどうこう）は、『廻国雑記』の中で、文明18年（1486）6月、越中国(今の富山県)立山に登拝したときのことを、次のように書き残しています。

（略）

かくて立山禅譲し侍りけるに、先三途川に いたりて思ひつゝけらる

この身にて 渡るも嬉し ミつせ川

さりとも後の 世にハしまし

（下略）

「三途の川」は、暗い川ではないようです。

(6) おわりに 奪衣婆が流行神になる

今回の特別展では、「三途の川」と関係の深い奪衣婆についての資料も展示します。

この奪衣婆は、「三途の川」の岸边にいて死者の衣服を剥ぎ取る老婆ですが、幕末になると突如、諸願成就（しょがんじょうじゅ）の流行神になりました。この様子が錦絵に描かれ、江戸庶民は奪衣婆に様々な願い事をしていました。最後に、この願い事がおもしろいのでいくつか紹介します。



錦絵「三途川老婆」

（願い事 その1） 御利益で女房が誠にお産を軽くいたしました。なんぼ軽いとて、ご飯を食いながら産みま
した。産んだのを知らずに、またお膳を三膳食べました。ありがたい、ありがたい、ありがたい

（願い事 その2） 御利益でおふくろが病氣もすぐに治りました。誠に達者になりました。小言ばかり言って
困ります。どうぞ、また少しあんばいの悪いように願います。

（学芸第二課 主査 高橋朝彦）



～来館者アンケート調査から～

はじめに

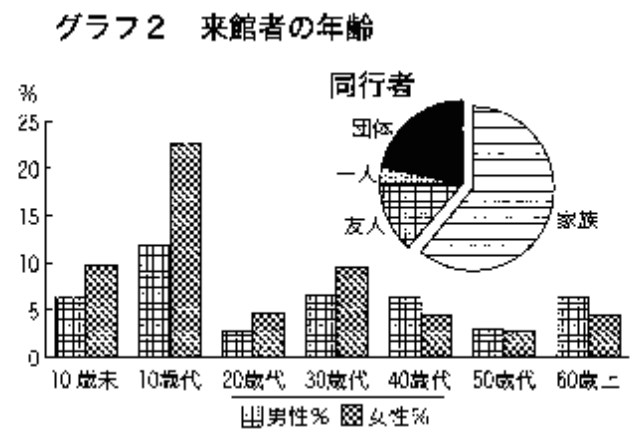
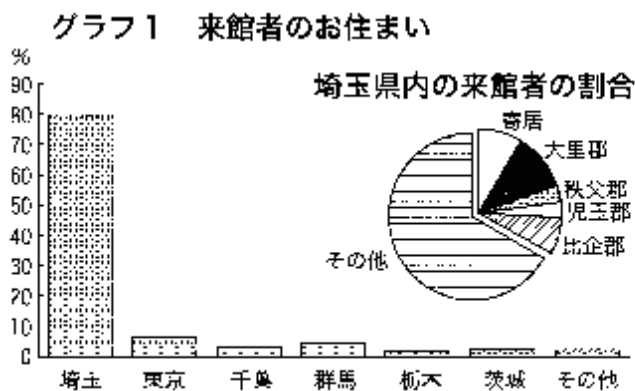
さいたま川の博物館は「荒川を中心とする埼玉の河川と人々の暮らし」をテーマとした河川系総合博物館です。水に親しみながら楽しく学べる博物館、家族で学べる博物館、体験や発見の喜びのある参加体験型の博物館を目指しています。そこで、来館者のニーズを把握しこれに応えるために来館者アンケート調査を実施しました。アンケート調査票は当館の総合案内と休憩ホールに置き来館者が自由に記入できるようにしました。平成10年8月から実施し3月までの8ヶ月間に2176枚の協力がありました。

【来館者のお住まい】《グラフ1》

来館者の約80%が埼玉県内です。県外では東京都や群馬県が多いです。県内の約15%が大里郡内（含む寄居）ですが、その他も53%と多く全県から来館してる様子がうかがえます。

【来館者の年齢や同行者】《グラフ2》

10歳代が一番多く10歳未満と30・40歳代にピークが見られます。家族での来館が多く、次いで団体での来館が多くなっています。



【かわはくを知った方法】《グラフ3》

彩の国だよりによる情報取得が一番多く知人等の口コミによることも多いです。また、テレビやラジオ、新聞、ポスター、広報誌「かわはく」など幅広い広報媒体から情報を得ています。その他の内容はインターネット、家族・先生、雑誌などから情報を得ています。

【来館回数】《グラフ4》

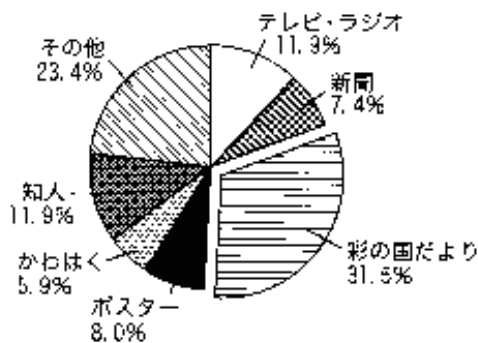
66%が初めての来館ですが複数回の来館者も多いです。5回以上来館している方も目立っています。

【展示や施設】《グラフ5・6》

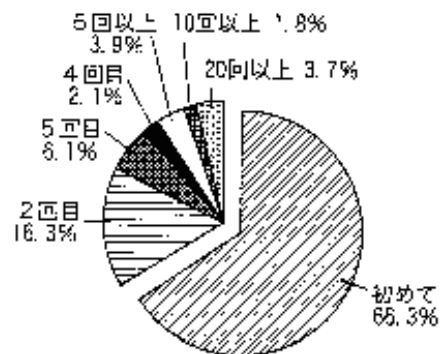
屋内展示、屋外展示では、「よくわかった」「わかった」の合計が70・74%です。グラフはありませんがアドベンチャーシアターや荒川わくわくランドの施設では「大変楽しかった」「楽しかった」の合計がともに74%、川と人々の暮らし、川の恐ろしさと治水の取り組み、川の自然を守る取り組みについて「よくわかった」「わかった」の合計がそれぞれ67・68・65%と高いです。このことから展示や施設がうまく機能していることが伺えます。具体的な意見としては、「楽しい」「よかった」などの肯定的な記述が多く（その他の欄の意見記載の内全体の31%）、また「埼玉の自然を生かしたとてもよい施設」「静かで心安らぐ」「子どもたちにとって目で見て触って体験でき楽しく過ごせる」「鉄砲壱イベントが楽しく見られました」など、当館の特徴を評価する姿勢が見られるとともに、来館者の満足度の高さが伺えます。

改善を求める意見として「祝日には催しを実施してほしい」「点字のパネルなどがあればもっとよい」「子どもが体験できる施設を」などがありました。

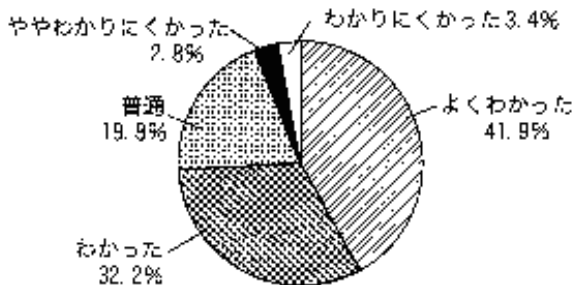
グラフ3 かわはくを知った方法



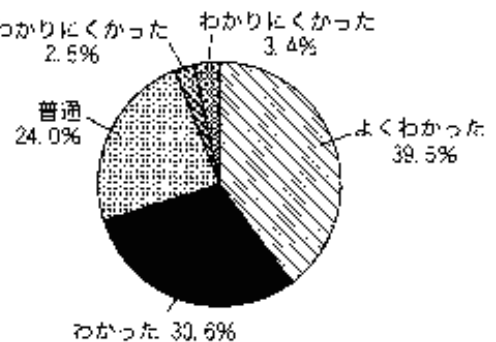
グラフ4 来館回数



グラフ5 屋内展示



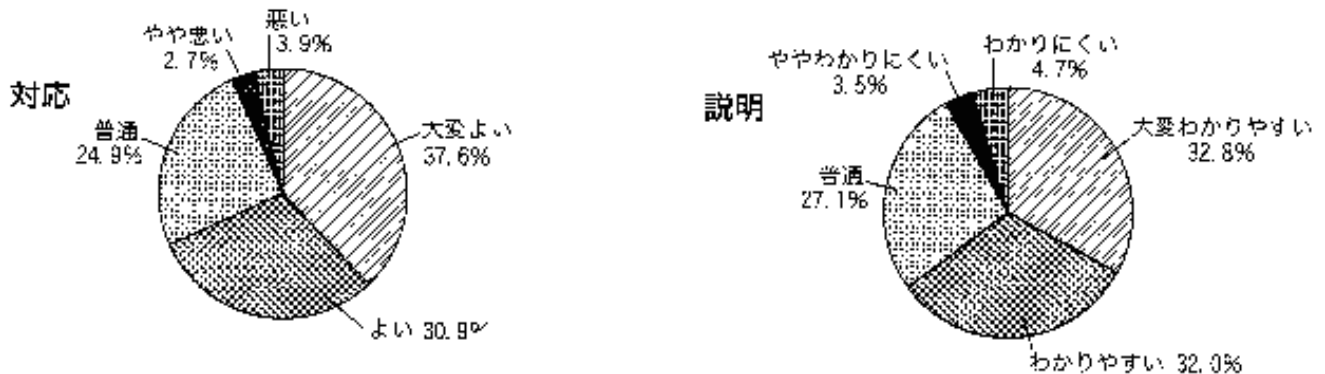
グラフ6 屋外展示



【プレイリーダーの対応や説明】《グラフ7》

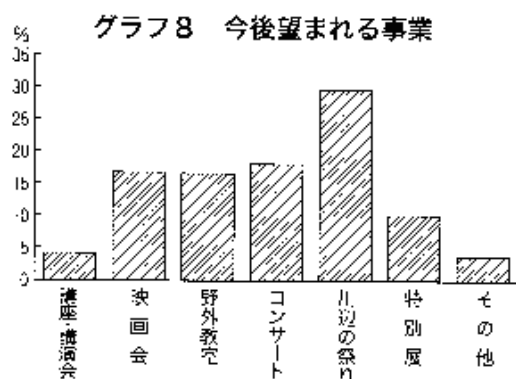
当館では、インフォメーション業務や展示解説をプレイリーダーが行っています。このプレイリーダーの説明や対応については「よい」「わかりやすい」が65・69%であり「皆親切でよかった」など、たいへん高い評価を受けています。その一方で「説明が聞きづらい」「質問にしっかり対応してほしい」との意見もありました。

グラフ7 プレイリーダーの対応や説明



【今後、望まれる事業について】《グラフ8》

アンケート調査によると、イベント型の事業（「川辺の祭り」「野外教室」「コンサート」「映画会」）に人気があります。これは、博物館においても県民の志向が受身型から行動型に変わっているためであり、参加体験型の博物館としての当館の特性がよく表れています。しかし、一方では「特別展」への要望も根強くあり、常設展示では見られない内容に対する県民の期待が伺えます。また、話題性のあるタイムリーな「講座・講演会」等への要望も少なからず寄せられています。



【おわりに】

当館では、こうしたアンケート調査の結果や県民等の要望などを踏まえ、改善できるものから順次応えていくとともに、地域に根ざした生涯学習の場としての役割を果たしながら、県民の生涯学習や学校教育を支える情報発信基地として、その立地特性を生かした事業を展開していく必要があると考えています。



～かわはくの展示から～

水車小屋広場 ～水の力を利用した動力機械～

はじめに

水車は、水輪に水をかけて水の持つエネルギーを機械的なエネルギーに変える装置をいいます。水をかける位置によって上掛式・胸掛式・下掛式に分類できます。

水車小屋広場には、荒川流域でかつて使われていた2種類の水車を移築復元して展示しています。また、かつて使用していた発電用水車も展示しています。

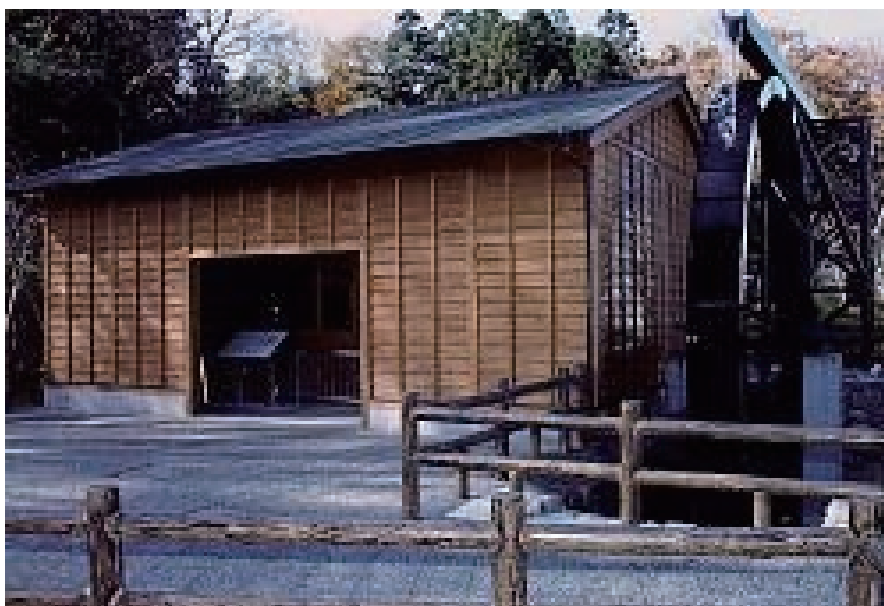
現在、12月から2月を除く毎週日曜日に水車小屋の実演を行っています。ごらんください。

皆野のコンニャク水車

皆野のコンニャク水車は、昭和35年頃までコンニャクの荒粉搗きに使われていた水車です。

この水車のあった場所は、皆野町日野沢で上流に華巖の滝があり、そこから樋で水を引いて動かしていました。

この水車の特徴は、上掛式で水輪をはじめ鉄製部品を多く使っていることです。歯車や杵などの木製部品とうまく組み合わされています。特に水輪は、8分割に分けられ、ボルトで締め付けられていて、その中間にくも手を配しています。全部で28本の杵があり、一度にたくさんのコンニャク粉をつくることができます。皆野町にあった頃の水車小屋付近では、コンニャク粉のほこりが舞っていたといわれています。



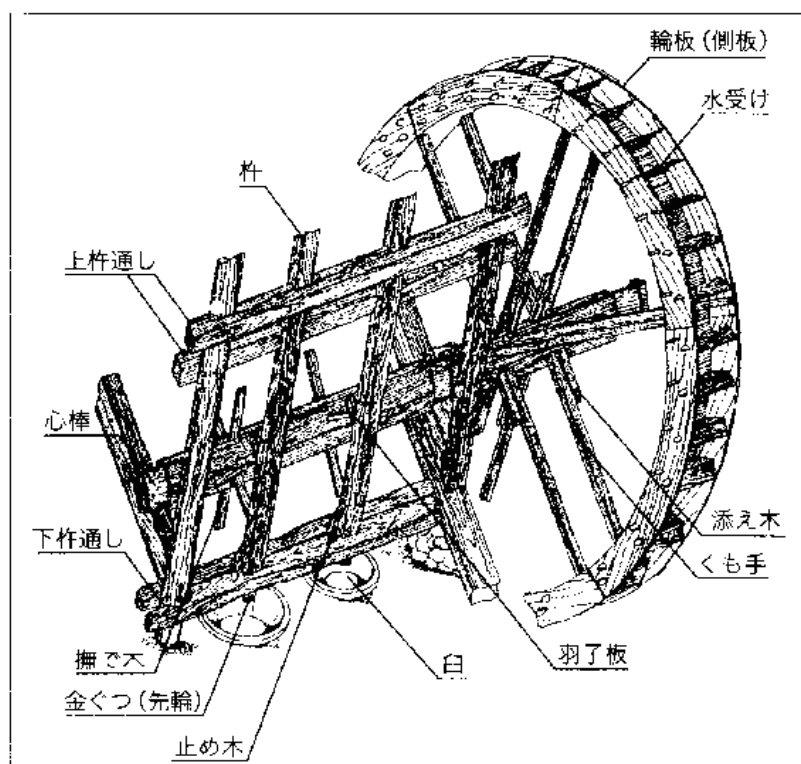
皆野のコンニャク水車の外観

東秩父の精米水車

皆野のコンニャク水車は、昭和35年頃までコンニャクの荒粉搗きに使われていた水車です。

この水車のあった場所は、皆野町日野沢で上流に華厳の滝があり、そこから樋で水を引いて動かしていました。

この水車の特徴は、上掛式で水輪をはじめ鉄製部品を多く使っていることです。歯車や杵などの木製部品とうまく組み合わされています。特に水輪は、8分割に分けられ、ボルトで締め付けられていて、その中間にくも手を配しています。全部で28本の杵があり、一度にたくさんのコンニャク粉をつくることができます。皆野町にあった頃の水車小屋付近では、コンニャク粉のほこりが舞っていたといわれています。



東秩父の精米水車の機構図

発電用水車

荒川源流域の大滝村大滝にある大洞第二発電所で使われていた水車で、フランス水車という形式のもので

す。水車は、水の落差と流量によって3種類のもが使われています。落差が大きく流量の少ない場合はペルトン水車が、落差が小さく流量の多い場合はカプラン水車が、落差も流量も適度にある場合はフランス水車が使われています。

日本では発電用水車の約80%がフランス水車を使っています。フランス水車は、増水期と減水期で水位の変動するダム式発電の場合に適しています。



1 かわはく夏まつり



8月14日、天候に恵まれませんでしたが一都会場を屋内に変更して実施しました。建設省荒川上流工事事務所(協賛)をはじめ太鼓の愛好団体にご協力いただきました。翌15日は、職員が中心になりイベントを実施しました。2日間のイベント参加人数は延べ1705人でした。眼の前の荒川キャスリン台風以来の大洪水でした。【関連記事 6p】

2 第1回特別展 7月17日～8月31日

「鮎を語るⅠ～食の文化誌～」

講演会 8月22日(日)「清流に生きるアユ」(84人)

講師 内山りゅう氏(写真家)

スライドがきれいでわかりやすく、大好評でした。

ワークショップ1. 8月1日「鮎の味覚、再発見」(331人)

香魚「あゆ」の味に舌づつみを打ちました。

ワークショップ2. 8月29日「友釣り・がら引き実験室」

増水で危険なため、残念ですが中止となりました。

[特別展の図録はコパンで取り扱っています](#)

3 土曜おもしろ博物館

■7月10日 川辺の昆虫を集めよう(89人)

捕虫網が自然学習場を舞いました。

■9月11日 ささ舟を作ろう(111人)

■10月9日 水車小屋で体験学習(52人)

4 ボランティア養成講座（3回連続）

教育普及の一翼を担ってくれるものと思います。

(1) 9月18日「展示は語る」(10人)

講師：柿沼幹夫(川の博覧館 副館長兼学芸部長)

「かわはく」全般について講義を行いました

(2) 9月25日「水の科学～わくわくランドの理念」(7人)

講師：富田廣行(川の博物館 主査)

水の科学について理論を中心に講義を行いました。

(3) 10月2日「荒川大模型は語る」(23人)

講師：久保田郁夫(川の博物館 主査)

大模型を利用した展示解説について講義を行いました。

5 シネマかわはく（映画会）

■7月18日 「那須疎水物語」 / 「バクの川」(81人)

■9月19日 「三ねん寝太郎」 / 「風ものがたり」(72人)

■10月17日 「それいけコロリン」 / 「洪水をなだめた人々」(27人)

6 荒川を歩く 4 10月10日

県立長瀬玉淀自然公園内を流れる荒川に沿って歩きました。「日本一の大きさ」といわれるポットホール、自然史博物館の特別展「埼玉にいたゾウ」も見学しました。

コース 樋口駅→洪水位看板→下野上神社→多宝寺→長瀬青年の家→ポットホール→岩畳→自然史博物館→上長瀬駅



7 ガリバーウォーク

大模型の解説の参加者も次第に増えてきました。(134人)

8 利用促進研修会 8月27日

主に教師向けに展示物の概略を解説しました。(31人)

9 8月1日水の日記念イベント

どんな水がおいしいのか？試飲しました。(128人)

10 子ども放送局

6月より主に第4土曜日に講座室で公開しています。番組内容は多岐にわたっています。(135人)

開館以来の入館者数 69万0094人(9月末現在)